

記念講演

講演：『ロータリアンの^{きょうじ}矜持』

2016年11月11日(金)

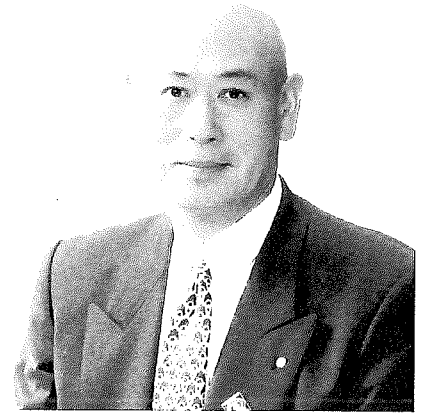
【講師】

RI第2800地区パストガバナー

ふじ かわ きょう いん

藤川 享胤 氏

(鶴岡RC)



【略歴】

- 1947年11月2日生
- 1994年10月より宗教法人般若寺 住職 現在 代表役員

【ロータリー歴】

- 1978年 鶴岡ロータリークラブ入会
- 1997-98年度 同 ロータリークラブ 会長
- 1999-2000年度 国際ロータリー第2800地区 ガバナー
- 2002年・2003年 国際ロータリー 研修リーダー
- 2002-04年度 ロータリー財団地域コーディネーター(第1ゾーン)
- 2002-03年度 国際ロータリーインターアクト委員会 委員
国際ロータリー指導力開発および研修委員会 委員
国際ロータリー識字率向上・東アジア小委員会 委員
- 2004-05年度 国際ロータリー 識字率向上グループ
ゾーンコーディネーター(第1ゾーン)
- 2005-08年度 国際ロータリー SAA委員会 委員(2006-07は副委員長)
- 2005-08年度 国際ロータリー識字率向上支援グループ
アジア担当エリア・コーディネーター
- 2008-09年度 2009年バーミンガム国際大会推進委員会 委員

他 国際協議会シニアSAA 3回 国際大会シニアSAA 2回
地区大会RI会長代理 8回

R財団大口寄付者 財団遺贈友の会 ベネファクター MPHF
米山功労者メジャードナー

皆様今日は。

只今ご紹介いただきました第2800地区鶴岡ロータリークラブの藤川でございます。

この度高良ガバナーのご要請をいただき地区指導者育成セミナーの講師としてお招きいただきましたこと大変光栄に存じております。

本日、私は「ロータリアンの矜持」という演題の下にお話をさせていただきますが、なぜ私がこのような大上段に構えたタイトルをつけさせていただいたか？と申しますと実は私自身残念ながら今のロータリーには少し違和感がございます、ロータリアンとして胸張っての矜持が持てないからであります。

今のロータリーというよりは今のRIの方針と言ったほうが正しいであります。

1999～2000年度、私はご当地の今は亡き百木パストガバナーと共にガバナーを勤めさせていただきましたが、そのとき国際ロータリー会長を務められたカルロ・ラヴィツァは「新しい千年紀に会費を納入するだけの会員はもうこれ以上必要とはいたしません。ロータリーが今必要としているのはわが身を律して地域社会、国際社会で鋭意奉仕を实践しようとする情熱溢れる男女ロータリアンでありますと言い切りました。」しかも彼はこう続けたのです。

「しかしながら現在、残念なことに世界のロータリアンの70%はただ昼食のためにだけ例会に集まってくる会員であります。そこで、私のガバナー2000の皆さんへのお願いは、このたかがロータリーとうそぶいて斜に構えておられる70%の会員の中から、どれだけ多くされどロータリーと思いなおしていただける真のロータリアンを育てていただけるか、その一点が私の唯一のターゲットであることをしっかりとご理解していただきたいのです。」そう言って私ども当時の

ガバナーエレクトを叱咤激励されたのです。

世界のロータリアンが119万人、日本のそれが12万2千人のときでありました。

しかしながらカルロ・ラヴィツアの言をかりるとするならば胸に輝くロータリーのバッジにプライドを持った彼のメガネにかなった当時のロータリアンは世界で35万7千人、日本のそれは計算上では3万7千人弱ということになっていたのです。

「熱意欠く、ロータリー知識の欠如する会員は、私たちの組織に害をもたらしかねません。なぜならその人たちは、奉仕の理想を効果的に推進できないからです。そればかりかクラブ内の士気を低下させる場合もありますし、何よりも地域におけるイメージを損なう場合があるのです。」

「会員の質のいかんによって私たちの力の程が決まるのです。」

「ロータリーをもし強力にしようとするならば、先ず以って内部関係の強化から始めなければなりません、それはロータリアンを教育する研修プログラムから始めなければならないということでもあります。」

これはカルロ・ラヴィツア元RI会長の言葉であります。彼は会員のロータリー教育の充実なくして、数は力なりを信奉して会員増強にひた走りする国際ロータリーの将来を大いに危ぶまれたのです。

ところがそれよりも約30年ほど前の1970年前後、すでに今日の日本のロータリーの会員減少を見透かしたかのような予言をなされた偉大なロータリアンが知られたことに私は驚愕の念を持っております。

1959～60年国際ロータリーの会長を務められ、あの有名なロータリー・モザイクを著わされたハロルド・T・トーマスその人です。「我々は今、憂慮すべき事態に直面しておる。それは何かというと、ロータリーを今日の力と安定にまで築きあげてきた、一つの職種から一人だけ会員を選ぶという一業種一会員の原則と規則的例会出席という二つの大原則が次第に希薄にさらに希薄にされていく傾向がある」そう言ってハロルド・T・トーマスは当時の国際ロータリーに強い警告を發したのであります。世界の会員数が68万人、日本のそれはまだ5万人に達していなかった頃のことです。

国際ロータリーの会長をお務めなされた偉大なロータリアンのアドバイスを無視してまでもロータリーは変えてはならない大原則を可能な限り規制緩和をして会員増強に突き進みました。そのことが将来的にはロータリー自身の首を締め付けることに繋がるかもしれないことを当時RIの官僚達は予想できなかったのであります。

勿論ハロルド・T・トーマス、カルロ・ラヴィツアを始めとする一部の心あるロータリアンはすでに気づ

いておられました。しかしその忠告に耳を傾けること以上にロータリーはロータリーが掲げる社会奉仕と国際奉仕を實踐し、社会から必要以上に期待された結果を出さんがためにいろんな理由や理屈は添えましたが、結果的には数集めを第一優先に掲げたのです。私がいまご紹介した2人の偉大なリーダーたちは私どもが触れにくいロータリアンの質と量の問題を真正面から言及しておられるのです。

質の問題を重要視するならば量を目減りは覚悟の上であります。さすれば質の高いロータリアンとはどんなロータリアンをさすのでありましようか。

私は29歳のとき鶴岡ロータリークラブに入会させていただきましたが、その時大いなるプライドを感じました。10万人の地方の小都市でありましたが宗教家の代表として私ごとき若造をクラブ会員の皆様が唯一会員に推挙して下さったと言う自負心を感じたからであります。ロータリーが何であるかをよく知らないまでもその名前にはブランドを感じておりました。

当時の会員数は55名、平均年齢は53歳でしたが鶴岡では名の知れた専門職務者と職業人のほとんどのの方が会員名簿にその名を連ねておられました。

その先輩たちが口をそろえて言われたことは例会への出席のことです。「ロータリーの会員には自分とは違った性格の人、異なった経験を持った人、変わった環境で育った人などがおられる。同じ業界では同一の職種類似の欲求を持った人達だけとの付き合いになりがちだけれども、ロータリーの例会では多種多様な人々に出会うから、そこから自分の欠点、長所が再認識され、また他人の行動から見習うべき言動、あるいは考えさせられる態度にいくたびか遭遇するはずです。こうしたことに接するたびごとに自己が磨かれ、鍛えられていくのですよ。すごい人はお手本にきなされ。嫌な人は反面教師になさればよい。いやむしろそういう人こそ藤川さん、あなたを磨いてくれる大切な宝になるかもしれませんよ。年代のギャップは感じるかも知れないけれど例会だけは出来るだけ欠席しないように。」

今は亡きクラブの大先輩であられた早坂バスターからいただいた今でも心の中に大事にしまっている大切な贈り物であります。

17年前私がガバナーのときの公式訪問で各クラブの会長・幹事さんやクラブ協議会などで皆様に特にお願いしたのはクラブの充実でありました。それは「ロータリーの精神を奮い起こせ」というテーマを示されたウィリアム・ロビンズ元国際ロータリー会長の、「ロータリーは成人教育の最も優れた実験場であり、ロータリーの第一の目的は親睦と奉仕を通して人を育てることにある。クラブの価値は、そのクラブがいかなる人材を育てたかによって計られる、それ以外何を

望むべきであろうか」という箴言を座右の銘にしていたからであります。

「ロータリーは人づくりの最高の場である」これが私のロータリーに対する信念であり心の支えでもありました。だからこそクラブが充実するかどうかのキーワードそれはカルロ・ラヴィツア同様に会員の質の如何によって決まってくる、そう思い続けてまいりました。

勿論ロータリーは人間として完成された、もしくは完成されつつある人々だけの集まりではございません。しかしながら磨けば磨くほどその素晴らしい資質を開花できうる可能性を秘めた仲間の集まりであることだけは間違いないと確信しておりました。その仲間が親睦することによってゆるぎない信頼関係が構築されたとき初めて奉仕と言う概念が生まれいてくるものであろうし、その親睦の場こそ例会に他ならないと思っておりました。

ロータリアンの中には親睦と奉仕は車の両輪のような関係だと申されるお方がおられますが私はそうとは思っておりませんでした。私が敬愛する前原バスターガバナーの言を借りるとするならば車の両輪ではなく家でもうせば一階と二階の関係であるという考えに共鳴しておりました。丈夫な一階という土台があってこそ初めて二階が存在し、親睦が十分にゆきわたったとき初めて仲間と共に奉仕の理想の実現が可能になると思っておりました。

逆にクラブ会員に信頼と敬愛の情なくして何でロータリーの真の奉仕などできるでありましようかと思っておりました。もともとクラブというものはロータリーに限らず同好者の集団でありますから会員個人に「やる気」がなかったらそのクラブは開店休業と同じであります。ましてや親睦は個人と個人との接触、つまりFace to Faceから生まれいてくるものでありますから欠席しては何の成果も効果もあがらないのです。ロータリーが出席をやかましく言う理由はここにありました。

ロータリーの例会に出てあの方にお会いでき心が救われた、厳しい経済環境の中だけでもう一度頑張ってみようというエネルギーをいただく場であると同時に、一週間浮世に出て、嘘もつき、利己主義に陥り、大いに穢れてはまた例会に戻り、仲間に出会って反省をして自分を新たに清め、志を高く持ち直して再び浮世に出ていく。でも又ちょっぴりだけど方便も使うしいい訳もする、しかしながら徐々にではあります。仲間と共に成長させていただく場、それが本来のロータリーの例会場でありポール・ハリスがロータリーを作った基であろうと思っておりました。

ですから藤川さん、ロータリーって何ですか？ そう質問されたとき私は迷わずこう答えて参りました。ロータリーとは「奉仕の心とそれを實踐する力が共に

伴った立派な専門職務者と職業人を育てる世界に広がる修練の場であります。」と。

ところがこの数年RIの現状を見ておりますと最近私は胸を張ってそうとは言えなくなってまいりました。否むしろ心あるロータリアンにとって今のロータリーは居心地の悪い環境になっているのではなからうかという危惧さえ感じておるのです。

ご承知のように2013年、前回の規定審議会では会員資格条件の中になんとハウスワيفという項目を採択いたしました。実はその前年国際ロータリーは3年計画で会員増強10万人増のターゲットを掲げ会員増強の大キャンペーンをスタートいたしました。そしてこの国にはその1割に当たる1万人の増強が課せられましたが増強どころか一時は世界のロータリアン数が120万人を下回った時期がございました。

ハウスワيفという会員の資格条件の採択は会員増強10万人計画が頓挫することをはじめから見越してのRI官僚が考え出した会員増強キャンペーン失敗の時の予防処置法的なものだと私は受け止めておりました。当初RIは世界の会員数を130万人までしようと思論みこのキャンペーンをスタートさせましたがキャンペーン中130万人どころか今申し上げましたように一時は120万人を下回った時期がございました。

これにあわてたRIはこのキャンペーンの最終年度のゲリー・ファン元RI会長になんと思かにも配偶者をロータリーに迎えましようという強調事項的な呼びかけまでさせたのです。何よりも権力者に尻尾を振りながら近づいていくリーダーが多い組織や計画したプロジェクトやキャンペーンが失敗したときに誰も責任を取る人がいないどころか、悪いときには身から出た錆と潔い出処進退が出来るリーダーが少ない組織の未来がどうなるかは推して知るべしであります。何よりもこれはロータリーが描く理想的なロータリアンの人格とはあまりにもかけ離れたそれではありますまいか。

先ほど申し上げましたようにロータリーの金看板は人作りのはずであります。だからこそロータリーはインターアクト、ローターアクトクラブを創設し次世代の健全育成に情熱を注いで参りました。ロータリー財団では奨学生を支援し、GSEを派遣し教育的プログラムを充実してまいりましたし、この国では米山奨学会も最大限に支援してまいりました。そして我々ロータリアンは職業奉仕という楔を自ら己に打ちこんで人格の形成、品格の向上に努めてきたはずであります。

しかしながらRIはロータリー財団の平和フェロー以外、今これらの人づくりのプログラムにはあまり関心を示しません。

それどころか2003年各地区に強制力を伴ってDLPが導入されたときすでに織り込み済みだとして各クラブに無理強いするがごとく提示したCLPでは、私ども

が金看板として大事に護持してきた職業奉仕委員会ですら奉仕プログラム委員会に十把一絡げに閉じ込めてしまったのです。彼らが関心を抱くのは会員増強とそれによって図られる人頭分担金の増収と貧困の緩和という美名の下に行う人道的プログラムであります。

そのRIの官僚を束ねるジョン・ヒューコ事務総長は昨年1月サンディエゴで開催されました国際協議会でなんと次のようなあきれ果てた発言をしておられるのです。

「確かに高い倫理基準、クラブの多様性といった時代を問わず普遍的に私たちの組織の根幹を築き、ずっと変えるべきではないほんの一部の伝統もあります。しかし、恩恵をもたらすよりむしろ障害となってしまうような伝統も数多くあるのです。会員数が減少している地域、(これは間違いなくこの国を指すのでしょが、)このような地域では過去と同じ方法では私たちの商品をもはや買ってもらえなくなったことを理解してすぐにでも見直しが必要でありましょう。戦略的な焦点の一つとして出席要件よりも参加を重視すると決めたら、ロータリーはどんなによい組織になるのでしょうか。

神聖化された伝統の一部を真剣に見つめ直し、クラブが一番よいと思うやり方で運営するための柔軟性を持たせる時期が来ているのかもしれないかもしれません。参加しやすいクラブをつくれればより多くの人々にとってもっと魅力的な組織になるのではないかと考えます。繰り返しますが、重要なのは出席ではなく参加です。」

彼には毎週の規則的例会出席など金属疲労を起こしかけているロータリーを変えねばならない神聖化した古き伝統だと思われていたのでしょう。ご承知のように今年4月シカゴで開催されました規定審議会に月2回以上の例会を開催すればよいという立法案を理事会から上程させ可決させるシナリオを現実化させましたがこれはその時すでに彼が描いていた戦略であったろうと思います。

さらに彼はこう続けたのです。「クラブや地区の会費構造の視点を変えてみては如何でしょうか?国際ロータリーへの人頭分担金54ドルがよく話題となりますがクラブ会費、地区経費、食費などが大部分を占めるロータリアンの実際のコストと比べればこれはスズメの涙です。」当時の人頭分担金54ドルを全世界のロータリアンから集めれば年間日本円で85億円以上になるのです。

85億円をスズメの涙と表現した時すでに彼はこれも今年の規定審議会で理事会からの立法案にRIの副会長に突然2017年から一気に4ドルずつ値上げをさせていただきますという修正案をださせ可決させるシナリオをもそのときに既に描いていたのでありましょう。

しかもあきれ果てたことにその値上げの理由がロー

タリー財団の年次寄付と人頭分担金の投資の失敗だと言うのです。ロータリー財団の年次寄付の投資の失敗ならまだ理解できますが年度決済の人頭分担金の投資の失敗とはどういう意味でありましょうか。彼らには我々の浄財を節約したり、効果的に使うというような謙虚な発想は皆無であろうと思われまます。

これらを画策したジョン・ヒューコという人物が国際ロータリーとロータリー財団を束ねる事務総長であり実質的な国際ロータリーの最高権力者であろうと思います。そして残念ながら今このお方に面と向かつて物申せる人がほとんどいないのが現実であります。国際ロータリーの会長経験者を以ってしてでもであります。

なぜか?理由は2つあるかと思えます。一つは優秀な彼の事務管理能力と発展途上国の政府ととても強いパイプを持つ彼にシニアリーダーといわれるロータリアンが束になって理論武装をしても対抗できないからであろうと思います。軒下を貸していた我々の従業員にいつの間にか母屋を乗っ取られてしまったといっても過言ではないと思えます。

もう一つの理由は、地位や名誉や名声をほしが一部のロータリーのリーダー達はその地位保全や名誉維持のために彼に物申すことが出来ないでいるのが現実であろうかと思えます。彼に対して唯一正面きって物申せるお方はヴィチャイ・ラタクル元国際ロータリー会長であります。ですからヴィチャイさんに対するRIの官僚たちのこれまでの仕打ちは筆舌に尽せないものがございませす。

国際ロータリーの会長経験者は、よほどのことがない限りロータリー財団の管理委員長をお勤めになられます。ご記憶の方もいらっしゃると思いますが、ヴィチャイ元会長は管理委員長就任1ヶ月でその任を辞職いたしました。表向きはご自身と奥様の健康の不安を理由と致しましたが、事実は当時の財団の事務総長と官僚からの受けた仕打ちに耐えに耐えた結果の無言の抗議であったのです。

昨年のロータリーの友り月号のラビンドラン会長のメッセージをお読みいただけたでしょうか?

「これまで20年間、私たちはロータリーで会員増強を声高に訴えてまいりました。目標を立て、キャンペーンを立ち上げて会員を増やすことだけに注力してきました。しかし、ロータリー全体の会員数は依然として横ばいです。今こそ道具を磨くときが来たのです。もっと会員を入れるにはどうすればよいかに注意を向けるのではなく、入会を増やし、退会を減らすためにロータリーの会員であることの価値をどう高められるかと問うべきなのです。

その一つの方法が7月に開催された新しい「ロータリーグローバルリワード」です。この画期的なプログラムで、ロータリアンは世界中のビジネスやサービ

業者とつながり、割引や特典を受けることが出来ます。ロータリーとの交渉により参加した企業に加え、ロータリアンも自らのビジネスの参加を申し込むことが出来ます。また参加企業が利益の一部をロータリー財団に還元するオプションも設けられており、すでにこれを利用している企業もあります。ラインアップは毎月更新され、特典が追加されていく予定です。今すぐに登録をしこのプログラムをご利用ください。利用者が増えれば増えるほどプログラムが充実し、得点も増えていくことでしょう。

これが国際ロータリーの会長のメッセージであります。なんと我々ロータリアンを小馬鹿にしたメッセージでありましょうか?おまけをつけてロータリーの会員を募りましょうというのです。おまけをつけるから退会を思いとどまって下さいというのですよ。我々はもうすでに職業奉仕をすることによって我々自身が直接受益者になっているではございませんか?子供だましのおまけにつられてロータリーに入ってくる人などいるでありましょうか?例えおられたとしてもこのようなロータリアンにロータリーの矜持など求められるでありましょうか。

このレベルのお方が国際ロータリーの会長であります。しかも残念ながらこれからもこのようなお方がこの組織のトップになっていくかもしれません。

ではどうしたらいいのでしょうか?

日本のロータリアンの中にはRIBIのようにRIからいつそ独立したらどうでしょうか?といわれるお方がいらっしゃるかもしれませんが、これは1927年以降法的に出来なくなっておりますから不毛の議論であります。因みに近年の規定審議会を見ていると日本からの代表議員のほとんどは規定審議会がロータリーの定款・細則を作るという法律作成の戦場であるという認識は少ないと言わざるを得ないのです。それは契約社会に生きる欧米の諸国の代表議員に話せば分かるというスタンスの日本のロータリアンでははなから太刀打ちなど出来ないからであります。

私自身2007年の規定審議会に第2800地区の代表議員として出席いたしました。その時いやという程思い知らされたことは、少なくとも規定審議会の中では日本は如何に小国家であるかと言う現実でありました。幸運にも日本の代表議員の皆さまの大変なご努力により最低限の面目は保つことが出来ましたが、契約を最優先にしている社会の中で生活をしているロータリアンと法律論で対等に勝負をしようとするならば、彼らを納得させるだけの理論武装をして臨まなければ日本から提出する制定案や決議案は採択されにくいという現実と直面いたしました。

感情論で訴えても同時通訳を通せば、提案者の思いは他国の代表議員の心には届きにくいのであります。

最もヴィチャイ・ラタクル元国際ロータリー会長のようには聴衆を釘付けにするような英語での提案理由や応援演説ができれば話は別でありましょうが。

それにもう一つ、我々の前には大きなバリアが立ちふさがっているのです。それはロビー外交という我々がもっとも苦手になっているバリアであります。例え日本の代議員が全員賛成や反対をしたところで代議員総数の1割にも満たないのです。幸運にも韓国、台湾の東アジア諸国の応援をすべていただいたとしても1割5分がやっつとであります。アメリカやヨーロッパの代議員を事前にどれだけ説得させられるか、それが今後の規定審議会において私どもが第一優先にすべき最重要課題であろうかと思えます。

国際ロータリーやロータリー財団に対する貢献度は規定審議会の票数には直接には結びつかないと言う現実を真摯に自覚しなければならぬと感じましたし、世界のロータリーの中での今の日本の立ち位置がどの辺にあるのかをしっかりと認識する必要があるかと思えます。

さすればどうしたらいいのでしょうか?

こういう時は原点に戻るしかないと思っております。つまりクラブベースで我々の先輩が金看板に掲げてきた職業奉仕を、我々自身もこれこそロータリーの真髄だとして掲げ、それを我々が忠実に実践して仲間同士で切磋琢磨して己を高めていこうというクラブ運営を各クラブがプライドを持って採択できるかどうか、そこがキーワードだと思っております。

ロータリーの本義である人づくりに共感を持つロータリアンをどれだけ増強できるか、今がまさに正念場であろうと思えます。口うるさいが心優しく懐の深いロータリアンがいるクラブは見事であります。その代わりRIの言うことは半分聴き流して結構でありましょう。

勿論ガバナーは当該年度の地区の唯一のRIの役員ですからそのような言動は出来にくいと思えますが皆様は標準ロータリークラブ定款に抵触しない限り可能な限りクラブ細則を利用なさって信頼でき敬愛できる仲間とロータリーライフをエンジョイしていただきたいと思えます。

よくロータリーの職業奉仕は難しくよく分からないといわれますが、ではロータリーの金看板職業奉仕を残りの時間皆さんと共に考えてみたいと思えます。

この大事な命題を考察するには少しばかりロータリーの歴史を振り返る必要があるかと思えます。

1905年、ご承知のように互恵取引と会員相互の親睦を旨として船出したロータリーは瞬く間にその裾野を広げてまいりました。ところが翌年、「会員以外の人々のために何もしないようなクラブには何の魅力も感じられない」そう言ってクラブへの入会を拒否したドナルド・カーターの言動はポール・ハリスの心を揺

さぶります。これが機縁で、ポール・ハリスは自分たちだけが得をするという考え方から脱却して会員以外の人々のために何かはしなければならないという奉仕という概念をクラブに取り入れたのです。

そして1907年、彼はシカゴクラブ3代目の会長に就任し、シカゴ市に公衆トイレを寄贈するという社会奉仕の先例をつくります。ご承知の様に翌年第4代の会長に再任されますが任期途中で辞任に追い込まれます。五番目の会員であるハリー・ラグラス達とのクラブ運営のあり方についての確執が原因でした。

クラブに奉仕という概念を取り入れようとしたポール・ハリスらと互恵取引と親睦の社交クラブで充分だとする仲間との確執を避けるため、ポール・ハリスはクラブと少し距離を置きクラブの拡大に精力を注ぎます。そして1910年には全米ロータリークラブ連合会の会長に就任するのです。この頃から着実にロータリーには奉仕という概念が息づいていったと思われます。

そして1915年サンフランシスコで開催された国際大会でロータリーの職業奉仕の原点になったとも言われるあの道徳律が採択されたのです。11条からなる道徳律の3条には次のような名文が記されております。

「吾は実業人であり成功の野心を抱いていることを認める。ただし最高の正義と道徳に基づかない成功はこれを欲するものではないということをしつかりと肝に銘ずるものなり。」

この一文はその10年前シカゴでポール・ハリスたちがロータリーを創設した時のアメリカの秩序なき職業倫理の低俗さを思うとき、驚嘆に値いたします。

そして6年後エディンバラで開催された国際大会で次のようなロータリー哲学の基であるアーサー・シェルドンの職業理論が紹介されたのです。

- その内容は、
1. 職業はただ利益を得るための手段だけではなく、それをもって社会に貢献、奉仕するために存在するものである。
 2. そしてその奉仕とは、継続的な利益を得るための人間関係の基本的法則である。
 3. 故に職業奉仕とは、リピーターを得るための科学的かつ道徳的な経営方法である。

これが彼の職業理念でありました。つまり実業家の倫理基準を専門職務の倫理基準に引き上げることが根本だったのであります。

この前年1920年に東京ロータリークラブが誕生いたしますからこの時点において日本のロータリアンのほとんどは職業奉仕の何たるかを充分には理解していなかったと思われます。

ある意味ではシカゴクラブの創世記以上に実業界のトップが集まった社交クラブ的存在であった日本のロータリアンが、ロータリーで職業奉仕が如何に大

事であるかを知るのは1927年以降であろうかと思えます。なぜならその年にベルギーのオステンドで開催された国際大会で4大奉仕が始めて類型化され「職業奉仕」という呼称が正式に与えられ「職業奉仕はロータリアンがそれぞれの職業を通じて他の人々に奉仕をし、かつ高い道徳的水準を保つことを奨励します。」と宣言されたからであります。

この時が職業奉仕の理念としてアーサー・シェルドンが提唱したロータリーの哲学の真髄、職業奉仕理論をロータリーが公式に受け入れた年であります。シェルドンが提唱した職業奉仕理念とは雑駁な表現を用いるならば、我々の目標は「自らの事業を継続的に発展させること」でありました。継続的に発展させる、ここがミソでありまさに生命線なのであります。

そのために必要と思われる経営学、販売学、人間関係学などを積極的に学ぶことは勿論、自らの利益を最優先せずに、自分の職業を通じて地域社会の人々に何らかの奉仕をさせていただくという信念を貫けば、どんな仕事でも必ず成功する。」まさに「One profits most who serves best」「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」ロータリーが掲げる第2の標語に繋がるものであります。

つまり顧客の満足度を最優先して、自らの職業を通じて他人に奉仕をさせていただくという信念さえぶれなければだまってもリピーターと新規顧客を獲得でき継続的な事業の発展に繋がる、これこそがシェルドンの奉仕理念の根幹であります。

よくロータリーとライオンズの一番の違いは何ですか？とご質問なさる方がおられますがこの答えも簡単明瞭であります。ライオンズには職業奉仕論がないのです。どんな風にして儲けようが儲けたお金を世のため人のために使うならばその行為は善行でありそのお金は清いお金になるという奉仕理論がライオンズにはございます。適切な表現になるかどうかは別にして善行はマネーロンダリングを正当化するのです。

それに対してロータリーの職業奉仕論はこれを真っ向から否定いたします。なぜなら目先の欲に目がくらんでの生業、つまり正義と道徳に基づかない成功は欲してはならないという我々が事業をなす時の精神的な支柱に背くからであります。その意味合いから申せばロータリーは町をきれいにする美化運動を推進するより、町を汚さない人づくりを優先すると言ったほうが分かりやすいかもしれません。

日本のロータリアンが職業奉仕論をロータリーの金看板として信奉するようになったきっかけの教材は1936年に出された大連宣言であろうと思えます。5条からなる大連宣言のもっとも大事と思われるところを分かりやすい口語文でお伝え申し上げます。

その1条は我々事業をなすものは全て道義を重んじ

るべし。なぜなら我々の事業は世のため人のためになすべきものであるからその事業を成功させたいと思えばなすべき人が道義から外れる行為を絶対にしてはならないのであります。

そして3条では同義から外れて巨万の富を得ることは我々がもっとも忌み嫌うところである。なぜなら我々の精神に反して利を得んがために義を売って信頼を失っては事業家としては死んだのも同然だからである。

11条からなる道徳律、5条からなる大連宣言の根底に流れ出でているものは「ロータリアンよ！！汝を修練せよ」であります。

日本のロータリアンにとってロータリーの職業奉仕の経営人としてのノウハウの教材はアーサー・シェルドンの奉仕理論とハーバート・テラーの4つのテストであり、その精神的支柱は道徳律と大連宣言であろうと思えます。これが日本のロータリアンが職業奉仕を金看板に掲げてきた基になったと思われる。この金看板がロータリーワールドで薄まったらロータリーに何の魅力が残るのでしょうか？

ポール・ハリスの職業奉仕に関するであろう、名言を一つご紹介いたします。

一般的に見て、ロータリアンは自分が携わる職業こそ社会に奉仕する最も手近な道であると心得ている。当然のことで職業にかけては専門家だが、慈善事業にはまったくの未熟者だからである。職業こそ自分にとって最も身近なものなのです。職業人がカムチャッカ半島や南洋諸島を調査して住みよい世界を作るために一役買おうなどと務める必要などまったく無い。そんなことをするより自分の社員の心に赤々と灯を点じ、希望と活力を如何にしてかき立てるか、その方策を徹底的に探求するほうが常識的なより良い奉仕の道である。

ロータリーはわれわれに偉くなることなど一切望みません。ただ立派な経営者や専門職務者になることは期待するのです。なぜならロータリーは誤魔化しがなくぶれない倫理観を保ち他の業者より高い付加価値を付け自分の生業を社会に提供し、最終的には世界の平和に貢献することをロータリーの目的にうたっている仲間の集まりだからであります。ポール・ハリスのこの言葉はロータリーの根幹を的確に言い表しているまさに金言であろうと思えます。

1947年2月ポール・ハリスがこの世を去るときこの組織がこんなに大きくなることを彼は想像していませんでしょうか。ロータリーに似つかわしくないと否定した教条主義がこれほどまでに幅を利かせることになるうと思っていただけでありましょうか。寛容という美名のもとにルール違反や不正行為までも黙認してありましょうか。

思い起こせばロータリー財団の原点は1917年のアトランタ国際大会で決議された「国際理解のための教

育基金」であり時の国際ロータリー会長アーチ・C・クランプが「戦争は人の心の中でおきる、その戦争を2度と起こさないためにロータリーが今なすべきことは「青少年の国際理解の促進」であるとの主旨によって基金の設定がなされたのであります。

それがいつの間にか財団を世界一の財団にしようとか、ロータリーは世界で有数の慈善団体であるなどと広言してはばからない元RI会長の言動をポール・ハリスはどんな思いを持って聞いているでありましょうか。I Serveを主張しているロータリーが限りなくWe Serveに近づこうとしている現状をロータリーも変革しなければならないと容認しているでありましょうか。

藤川さん、では貴方がおっしゃるようになりかなりレベルダウンしている今のロータリーに貴方がいまだに身をおいておられるのはなぜですか？と疑念をもたれるお方がいらっしゃると思います。では最後にそれにお答え申し上げます。

私には尊敬申し上げているロータリアンが何人もいらっしゃいますが、心から信頼申し上げお慕いしているロータリアンがお二人いらっしゃいます。

そのお一人が元RI会長ヴィチャイ・ラタクルさんであります。ヴィチャイさんは今年90歳になられましたが、私の恩人であると同時に私の心の師であります。私を国際協議会の研修リーダーに指名して下さったのがヴィチャイさんでありましたし、そのご縁でいるんなRIや財団の委員もさせていただきました。知っておられるお方は少ないと思いますが実は先の大戦中ヴィチャイさんは香港で日本兵から命にかかわるほどのひどい仕打ちを受けられたのです。

しかしその怨念を乗り越えて今は日本が大好きでありますし多くのご友人がいらっしゃいます。日本に来て大歓迎を受けるたびごとにいつも言っておられたことはチャロイをつれてきたかった。でありました。

一昨年ヴィチャイさんは最愛のチャロイ婦人を亡くされましたがいまだに埋葬をなされておられません。なぜ埋葬なされないのですか？とお聞きいたしましたらこうお答えになられました。

RIの会長を勤めたあと私は体の不自由なチャロイを残して世界中を駆け巡らねばなりません。チャロイはどんなにか寂しかったことでしょう。Fuji、私がもうそんなに長くはないことは私が一番よく知っております。だからせめて私があの世に旅立つときには彼女と一緒に連れて行ってあげたいのだよ。

そのヴィチャイさんが最近私によくこう言うのですDon't believe the RI.

国際ロータリーの会長を人一倍見事なまでにお勤めいただいたお方のお言葉ゆえに大変重い言葉だと受け止めております。その私が心から敬愛してやまないヴィチャイ・ラタクル元国際ロータリー会長は私たち

にこうあつく語りかけられました。

「奉仕は、時間を超越した原則で、この上にロータリーは築かれました。私はもう50年以上ロータリアンですが、奉仕に直接参加しなければ、どんなにロータリー歴が長くても、誰も真のロータリーマジックは体験できないと申し上げる事ができるのです。」

ロータリーの世界で私どもが使っている奉仕という言葉の英語の語源はサービスでありヴォランティアではないのであります。

ではなぜサーブの名詞サービスを使うのでありましょうか。それはロータリーでいう全ての奉仕は、奉仕をすることによって他人を潤すこと以上に、自分自身を磨き、高めるために欠くべからざる大事な修練の行だと考えるからであります。それはノーブレス・オブリュージュ、選ばれし職業人と専門職務者が仲間と共に社会になすべく大事な責務だと考えるからであります。

ロータリーがI serveにこだわる理由はここにあります。ヴィチャイ・ラタクル元会長をして、「私は50年以上ロータリアンであります、奉仕に直接参加しなければ真のロータリーマジックは体験できないのであります。」と言わしめたあの名セリフは、まさにこのI serveを強調なされたものだとして受け止めさせていただいております。

ですから私は微力ながらヴィチャイさんがお立場上言えないことをどんな横槍を入れられようとも言い続けることが私の使命I serveだと思っておりますし、それをなし続けることが今の私にとっては唯一ロータリアンとしての矜持に繋がることだと思っております。

一方中島先生は私より一回り上のイノシシ、3年前77の喜寿を迎えられました。3年前のお正月「私もお蔭様で喜寿を迎えました。それを引き際に、6月でクラブを退会することに決めました。クラブ理事会も何とか承してくださいました。貴方にだけはお知らせしておきますが、今しばらくはご内密に！」というメールをいただき驚きました。

私を残してロータリーを去られるのですか？とすぐに返信いたしましたら先生から、ごめんなさい！約束をたがえて。でも貴方はまだ若い。私は歳をとりすぎたのです。今のロータリーを、そしてこれから間違いなく歩むであろう、私の夢とは相容れないこの組織の将来を見届ける勇気がなくなったのです。というメールをいただいて納得せずにはいらませんでした。

1951年に制定された現行の綱領、ロータリーの目的から踏み外れた方向に行きかけているロータリーであります、私は出来る限り1ロータリアンとしてロータリーの行く末を見届けたいと思っております。

なぜなら、この組織があつて職業奉仕に出会えたからこそ、ちよっぴりですが己を高めさせていただきまし、なによりもヴィチャイ元会長に中島先生に本

日こうして皆様ともお会いでき、しかもただの一宗教家の立場だけであつたならめぐり合えなかつたであろう、多くの素晴らしき友人たちと深い友情の絆を結ぶことが出来たからであります。その恩に報いることが私に与えられた大事な責務であると確信しております。

80数年前ポール・ハリスは次のような興味深い言葉を残されました

「繁栄は際限の無い憧れであり、窮乏は悩みと悲嘆の種である。ただ我々は忘れているのだ！いつの世でも逆境が偉大なる人格を形成してきたことを、又繁栄によって強健な国民が育つたためしがないことを、繁栄は精神的にも肉体的にも人を怠惰にする。即ちこれ滅亡の前兆である。」

今のロータリーの現状を滅亡の前兆と考えるかそれとも強健なクラブを作りなす絶好のチャンスと捉えるか、ポール・ハリスの言葉は大変意味深いものがあるかと思ひます。

もし皆様が後者と考えるなら、今こそロータリアンの矜持をしっかりと積み重ねながら行動すべきであろうかと思ひます。それが質の高いロータリアンにつながる道であろうと確信致します。

高良年度も4ヶ月、三分の一が過ぎ去りました。残り三分の二、皆様のご理解とご支援の下に見事な年度になられますように心からご祈念、ご期待申し上げます。

ご清聴いただきましたことに感謝申し上げます本日のお話を閉じさせていただきます。

有難うございました。